

オムロン基金プロジェクトによる研究プロジェクト  
2012年度最終報告書

申請者  
所属 ビジネス研究科  
氏名 山口 薫

1 研究プロジェクト名	サステナブルな経営および金融経済システムのデザイン
2 研究メンバー	山口 薫 共同研究者： 福島史郎 DBS 嘱託講師（オムロン株式会社）
1) 活動実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 7月にスイスで開催の第30回国際システムダイナミクス学会に参加し、最新のサステナブル経営に関する研究動向を調査。11月同志社ビジネススクールで開催のシステムダイナミクス学会全国大会にてその研究概要を報告（福島）</li><li>・ 9月にシカゴで開催のマネタリーリフォーム会議に招待され、研究成果を報告（山口）</li></ul>
2) プロジェクトから得られた成果	<p>システムダイナミクスを用いたマクロ・ミクロ経済の統合モデルを構築し、世界で最初のグリーンビジネス指標の開発に成功（山口・福島）</p> <p>公共貨幣システムと現行の債務貨幣システムをシステムダイナミクスのマクロ経済モデルを構築して比較し、前者のシステムが、金融安定化、貨幣安定化に比較優位であることを世界で初めてシミュレーション分析し、持続可能な社会構築のためには、公共貨幣システムが必要となることを提案（山口）</p>
3) 成果物〔出版物、研究発表、講演など〕	<ul style="list-style-type: none"><li>・ グリーンビジネス指標の開発（DBSワーキングペーパー、2012年3月）</li><li>・ On the Monetary and Financial Stability under A Public Money System シカゴ会議での研究報告資料</li></ul>

#### 4) 申請時に記述された内容と成果の比較〔達成度についての自己評価〕

過去2年間の努力により、DBSの Green Business Program は徐々に世界的に認知されるプログラムに成長しつつあるが、本研究の完成をもって、この分野に於けるパイオニア的研究成果を示すことが出来たのは大きな成果である。具体的に申せば、昨年スイスで開催されたシステムダイナミクス学会においてグリーンビジネスの進化をステージモデルによって説明する研究が高い評価を得ていたが、今回開発したモデルは、特定のステージを定義することなく、より一般的、基本的な原理原則に則って、グリーンビジネスの構造と社会、環境との相互作用を明らかにすることができたという意味でパイオニア的である。このことは、ビジネスの特徴や取り巻く環境をモデルに反映させた上で、経営者の意思をパラメータとして与えシミュレーションできることを意味し、グリーンビジネスの実践を皮相的なレベルから、より深いレベルで経営理念化して実践してゆくことができるようになったという意味で革新的である。これらのツールや知見を用いてグリーンビジネスを志す経営者が自らのソリューションを磨き上げる実践を通して、DBSのグリーンビジネスプログラムがさらに世界的に広く認知されるようになると期待される。

特に、グリーンビジネスと金融・貨幣システムを融合する研究は、世界的にも独創的であり、今後こうしたサステナブル研究の先駆けとなると予想される。その一例として、Money and Sustainability - The Missing Link , A Report From The Club of Rome-EU Chapter (2012) p.129 で山口のサステナブル金融システムのこれまでの研究が評価されている。